



大分県書道

令和7年10月号 No. 424

「大分県美術協会書道部会会長に就任して」

このたび31期大分県美術協会書道部会会長に就任しました。これもひとえに戸口勝山先生をはじめ先輩の先生、会員の皆様のお力添えのおかげと感謝いたしております。8月3日には、県書連杵杵六郷会長の音頭により盛大な祝賀会を開いていただき、あたたかい励ましの言葉の数々に感激し、重責を担う覚悟を新たにしました。ありがとうございました。

県書連からは、牧泰濤先生、戸口勝山先生、藤井青霄先生、山本雅風先生、樋口紫水先生、杵杵六郷先生と、錚々たる先生方が会長を務めてこられました、その職を引き継ぐことは大変光栄ですが、バトンをしっかり運び次へつなげなければと、責任をひしひしと感じています。

とは言え、私は一人の「お習字の

先生」にすぎません。教室を開いたのは23歳のとき。生徒5人からのスタートでした。生徒あつての私で、教えることを通じて育てられました。書道一筋に走ってきた40年は、振り返ればあつという間であつた気がします。初志を決して見失うことなく、会の発展に尽力します。

昨年は事務局長として60周年記念展の運営を経験しましたが、早くも61回展が目前に迫っています。気持ちも新たに責任者として臨む今回も、県書連関係の先生方が多数出品してくださることと心強く思っています。忙しさに追われる毎日ですが、皆様のご期待に応えられるよう、成功を目指してまい進します。

「伝統は革新の連続である」とは虎屋の十七代、黒川光博氏をはじめ

理事 後藤 進
(青雲)

め、その道の大家たちが口にしてきた言葉です。私も故きを大切にしながら積極的に新しいものも取り入れ、若い世代へ書道文化をつないでいきたいと思えます。皆様のご協力をお願い申し上げます。

